

(第3種郵便物認可)

特定危険指定暴力団・工藤会系組幹部、田中幸雄容疑者(56)＝殺人容疑などで逮捕＝は13年12月19日午前5時45分ごろ、王将本社の駐車場で、大東さんを銃撃

発生し、有力な目撃情報は

して殺害した疑いが持たれている。捜査関係者によると、田中容疑者は黙秘している。事件は夜明け前の早朝に

# 「歩容認証」容疑者絞り込み

## 防犯カメラ映像 歩き方を比較

### 王将社長射殺

「餃子の王将」を全国展開する王将フードサービス(京都市山科区)の社長だった大東隆行さん(当時72歳)が2013年に射殺された事件で、京都府警などが容疑者を絞り込むのに、人間の歩き方の特徴から人物を特定する「歩容認証」と呼ばれる鑑定技術を活用していたことが、捜査関係者への取材で判明した。現場周辺の防犯カメラなどに記録された複数の映像を解析し、別に収集した容疑者の歩き方の映像と照合。「同一人物と考えて矛盾はない」という専門家の鑑定結果を得たという。

盗難バイクの捜査や、現

場となった王将本社から数十メートル離れた路上など、山科区内の複数の防犯カメラに、不審な男が映っていたことが判明。事件2カ月前には、同市伏見区内の飲食店駐車場でバイクが盗まれ、2人組が走り去る姿が記録されていた。現場を下見し、周到に準備していたとみられる。

や歩幅、腕の振り方などの

解析では、歩く際の姿勢

なかつた。そのため、府警は大量の捜査員を投入し、広範囲の防犯カメラ映像を収集した。その結果、事件前日に、

場付近に残された、たばこの吸い殻のDNA鑑定などから田中容疑者が浮上。府警は最近になって、外部の専門家に複数の映像の鑑定を依頼し、過去に記録された田中容疑者が歩く映像と比較した。防犯カメラ映像は、顔や服装が不鮮明な画像が多かったが、歩き方

に無償提供し、全国の警察

で活用されている。システムでは、人が歩く二つの映像を入力すると、同一人物である可能性が何%かを示すことができる。

AI発達 2歩でも分析可

特に最近では、AIを用いた深層学習(ディープラーニング)の発展で、技術の進歩が進み、2歩だけ歩く映像でも本人か特定できるほどだという。一定の条件下で誤りが出る確率は、10年前は約1%だったのに対して、現在では約0.1%に

の特徴は識別できたため、同一人物の可能性が高いと判断されたという。

容疑者勾留延長

京都市裁は8日、田中容疑者(56)について、勾留の延長を認める決定を出した。勾留期間は18日までの10日間。

歩で回した。逆方向に歩く映像を用いた際の精度も向上するなど、捜査での利用の幅は電車の八木教匠は「有力な証拠になり得る」と力を込める。

ただ、DNA型や指紋は極めて高い精度で人物を特定できる証拠として扱われるのに対し、歩き方は他の人にもなる可能性もある。歩容認証による鑑定は、他の証拠を証拠とした立証に劣るなど、いまだに補助的な役割として使われることが多い。映像も、秒間の枚数で撮影されている必要があり、検回もや前回は、歩容認証には十分な制約があるという。

府警捜査課長は「王将の事件を起した容疑者は、歩容認証の技術がなかった。今では、お前の利用にもなるようになった」と話している。